

トランスナショナル STS

4S (科学社会論学会) の 2018 年大会テーマは「トランス・ナショナル STS」です。これには学会のトランスナショナルな性格を深め、拡大するような発表、パネル、その他のイベントを歓迎するとともに、その「トランス・ナショナル」という言葉が含む二つの要素が喚起する問題に取り組みたいという思いがこめられています。その二つの要素の一つは、横断する、超える、一変させるといった意味をもつ接頭辞「トランス」です。そして、もうひとつは「ネイション」です。世界がグローバルなレベルで変化するのに対応し、「ネイション」が占める地位は疑問にさらされ進化するようにながされていますが、同時にナショナリズムが再び活発になるということも起こっています。科学技術社会論 (STS) のもつグローバルな射程を最大限に活かし、わたしたちはそれぞれ異なる地域に根ざしている学会参加者 (学者、実践家、学生) の間での連携を強化することを目指しています。それは、トランスナショナルなレベルで協力可能な知的・政治的活動のための批判的基盤を 4S やほかの学術団体が次世代にどうすれば提供できるのかについての対話を促すことにつながるでしょう。わたしたちはまた広範囲にわたるさまざまな概念についてたちどまって考えてみることも歓迎します。たくさんの概念が変容しつつあること、あるいは変容しなければならないということを受けとめることは、現代の学問的、実践的に重要な課題に取り組むうえで必要なことです。国民や国家を意味する「ネイション」についてわたしたちが現在もっている概念、知識、実践、制度というのはまさにぴったりな例です。「ネイション」について考えるならば統治、身体、そして生活世界についてわたしたちが普段考えたり、組織したりするやり方をラディカルに再編成する必要性に気づくでしょう。ほかのさまざまな概念についての大幅な再考もわたしたちは歓迎します。それは基礎的なものも、新しく登場したものも含むでしょう (たとえば、正義、生-政治、イノベーション、<帝国>、人新世)。先住民をめぐる政治、国境管理、天然資源の採掘、気候変動、再生可能エネルギーといったオーストラリア、およびより広範囲のアジア太平洋地域で特別重要な意味をもつ問題について学会参加者の関心を引き起こすような活動は学会開催中にも事前にも行われる予定です。STS のもつ豊かな多元性の力を最大限に活用することで、STS が誇る多様な系譜とアプローチの重要性を示し、それを現代世界の豊かな多元性と接続させることをわたしたちは目指しています。